

主たる夏秋野菜品目の販売動向について

【胡瓜】

埼玉・群馬の関東産の加温・無加温タイプともに順調な入荷量で推移し、5月は潤沢な出荷量であったため、厳しい販売環境でありました。5月下旬には品薄感により相場が上向き予想をしていましたが、西南暖地の入荷量も多かったこと等から6月に入ってから同様な状況が続いています。現在においては、各産地の総体量も落ち着き、相場も上向き基調となっています。

【トマト】

熊本県は徐々に切り上がりを見せており、共選については6月20日頃で終了となります。また、個選については7月10頃までの入荷を見込んでおります。また、近在産地は順調な入荷量となっており、依然、販売環境は厳しい状況が続いています。(AM@1000-800円)
ただし、今後においては近在産地の入荷量も落ち着いてくる見通しとなっており、6月下旬頃からは相場も上向き基調になると見込んでいます。

【アスパラガス】

今年度においては、九州産の春芽は前年と比べ6~7割、東北産も5~7割と全国的に不作傾向となっています。東北の産地は立茎期に入っており、九州産の夏芽も今後増えてくると見込んでおり、総体量は少ない状況となっています。福島産の夏芽の出荷については、ハウスは6月20日以降、露地は7月に入ってからを見込んでおり、ピークは海の日頃の見通しとなっています。

【ほうれん草】

現在はハウス物が7割程の出荷となっており、近在産地においては小松菜への転作により入荷量が減少しています。また、岩手・栃木の高冷産地が低温等の影響により出荷が遅れており、総体量も少なく相場は上昇しています(露地@100円、ハウス@120円)。今後においては各産地の増加傾向を予想していますが、極端な増量は見込めないため、大きな相場の崩れは無い見通しです。

【キャベツ】

関東産、愛知産ともに生育は順調に推移しています。千葉県産は6月上旬までピークを迎え徐々に減少傾向、茨城県産においては6月いっぱい潤沢な入荷量を見込んでいます。現在においては関東産の入荷が潤沢となっているため弱めの相場となっていますが、下旬に入り産地の切り替えによる端境のため、強めの相場を見込んでいます。

【ねぎ】

現在は茨城産の初夏どりがメインの出荷となっており、茨城県下では日量33,000ケース程の出荷、JA岩井だけでも日量25,000~23,000ケース程とピークを迎えています。M・S中心の細物傾向となっています。相場は高値で推移しており(夏どりバラ@2500-2300円)、6月いっぱいはこのままの相場で見通しです。

お問い合わせは 園芸畜産部 園芸課 (018-864-2491) へ